

第2 問題作成部会の見解

1 問題作成の方針

「韓国語」は、今年度から大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の外国語科目に加えられたものである。高等学校学習指導要領では「その他の外国語」として扱われ、目標及び内容について具体的な記述がない。したがって、出題は「ドイツ語」及び「フランス語」に準じて行われるものとなった。「ドイツ語」と「フランス語」に関して高等学校学習指導要領に掲げられている内容に準拠し、一方では高等学校における韓国語教育の実態と使用教科書を把握して出題することとした。

しかしながら「韓国語」は、当初から二つの大きな問題点を抱えていた。第一に、本科目は平成12年度秋になって急ぎよ、平成14年1月のセンター試験に導入されることが決定されたため、実態調査から研究、作題までのあらゆる作業をわずか4か月という短期間で行わなければならなかった。そのため、新科目であるにもかかわらず、試行問題を実施する等、教育現場の実態を把握するための時間的ゆとりがなかった。第二に、高等学校における韓国語教育は標準となるカリキュラムや教科書を欠いており、高校現場の教育水準について手探り状態のまま作題せざるを得なかった。試験問題調査研究委員会の調査によれば、韓国語教育に関しては学校間格差が甚だしく、教科書も多岐にわたっている。

したがって、「韓国語」試験実施初年度に当たる本年は、ドイツ語及びフランス語ないし英語教育において高等学校学習指導要領が求めている内容と水準を参考にしつつ、出題の範囲と水準を設定せざるを得なかった。

具体的には、音声・表記・文法・語彙等の項目に分けて言語材料を収集し、各種調査によって現在までに判明している使用実情を考慮して出題することにした。

まず問題の難易度は、上記「ドイツ語」・「フランス語」に準ずるものとし、過去の出題例を参考に設定した。表記法については、韓国の文教部（日本の文部科学省に相当）で定めた正書法及び韓国国立国語研究院の『標準国語大辞典』に基づいた。韓国と北朝鮮で違いが見える部分については、日本の高等学校教育においては韓国の正書法が採用されているという現状にかんがみ、原則として韓国文教部方式に準拠して作題することとした、その一方で、後者に準ずる教育を受けた受験者が不利益をこうむらないように配慮した。

2 各問題の出題意図と解答結果

(1) 本 試 験

第1問 韓国語の発音・表記に関する基本的知識を問う問題である。

①A：濃音化に関する問題である。

問1 合成語における濃音化と、用言子音語幹に後続する語尾の平音の濃音化。

問2 漢字語の終声 ㅁ に後続する子音 ㄷ の濃音化と、連体形語尾 ㅁ に後続する平音の濃音化。

②B：激音化と流音化に関する問題である。

③C：韓国語の漢字音に関する問題である。

A・Bのようなハングルで表記された語の発音を問う問題ばかりでなく、Cの漢字音に関する問題もふくめたのは、日本における学習者にとって韓国語の漢字音の知識を身に付けておくことが語彙を増大させる上で極めて重要であると判断したためである。出題の範囲はおおむね日本や韓国の教育漢字と同水準の基礎的な漢字を想定している。

A・Bは初歩的な問題であるにもかかわらずその正答率はそれほど高くはなく、受験者が意外にも正確な知識を身に付けていないことが明らかとなった。Cの正答率は高率で、いずれの問いも8割程度を占めた。

第2問 語彙と文法の知識、及び日本語と韓国語の表現の違いを問う問題である。語彙については様々な品詞に満遍なくわたるように配慮した。表現については、書き言葉のみならず話し言葉にも着目した。いずれも難易度別の配分を考慮しつつ作問した。とりわけ日本語母語話者の学習の要点となるべき点は重点的に出題した。なお、解説文中のⅠ、Ⅱ、Ⅲはそれぞれ第Ⅰ語基、第Ⅱ語基、第Ⅲ語基を示す。

A 活用形を基本形に戻す問題である。

問1 母音語幹に -아서 / -어서 を接続させた形(Ⅲ-서) がきちんと理解できているか否かを問う問題。②の正格活用が正解であるが、③の 으 変格を選択した誤答がかなり見受けられた。

問2 母音語幹に -아라 / -어라 を接続させた形(Ⅲ-라) がきちんと理解できているか否かを問う問題。比較的正答者が多かった。

B 用言を正しく活用させる問題である。

問1 この例文での 누르다 は「押す」の意であるので、ㄹ 変格である。よって①が正しい。으 変格(으 語幹) と思い違いしている解答が見受けられた。なお、④は ㄹ 変格であるがこれは「黄色い」の意となる。

問2 この例文での 묻다 は「問う」の意であるので、ㄷ 変格である。陰母音語幹なので、③が正しい。なお、①は正格であり、「埋める」の意となる。ほとんどの受験者が正しく答えていた。

C 語彙及び表現を問う問題である。

問1 「太陽が沈む」に相当する語彙を選択させる問題。①は逐語訳的に正しいように見えるが、해가 지다 が正しいので④が正解である。

問2 衣類に対する助数詞(名数詞)を選択させる問題。韓国語は、日本語や中国語と同じく、品物を数えるときの助数詞が品物によって決まっており、正しく使いこなせることが要求される。①は「杯」、③は「本」、④は「足」。

問3 助詞(体言語尾)を問う問題。韓国語の助詞の用法は日本語と類似する場合が多いが、「…になる」という場合は日本語とは異なり、「が」に相当する助詞である -가 / -이 を用いる。

問4 「…ひとつとってみても」に相当する語句を問う問題。…하나만 보더라도 がこれに当たる。-더라도(Ⅰ-더라도)は「…しても」を表す語尾である。

問5 命令の引用形を問う問題。「と」を表す語尾(助詞) -고 の前にくる命令形は -아라 /

-어라 (Ⅲ-라) でなく -(으)라 (Ⅱ-라) である。また、引用形語尾 -고 の前には下称 (한다 体) がくるので、①と②は誤りである。

問6 二重否定の表現。紛らわしい形が並んでいるが、よくできていた。①は「聞いてさしあげたらいけません」、②は「聞いてさしあげなければいいです」、③は「聞いてさしあげることができません」、④は「聞いてさしあげないわけにはいきません」。

D 類似の語彙・表現を選択させる問題である。

問1 같이 は「いっしょに」であるが、これと意味の近いものは③의 함께 「ともに」である。②は「異なり」、③は「より少なく」、④は「いつも」である。

問2 늘 は「いつも」であるが、これと意味の近いものは③의 항상 「常に」である。①は「ひとしきり」、③は「とにかく」、④は「いっそう」である。

問3 設問の下線部は「乗り遅れはしないかと思って」であり、これと意味の近いものは④의 「乗り遅れないだろうかと思って」である。①は「乗り遅れて見ようかと思って」、②は「乗り遅れてもいいかと思って」、③は「乗り遅れるようにしようかと思って」である。

問4 設問の下線部は「登れば登るほど」である。これと意味の近いものは①의 「登るに従って」である。②は「登るのに」、③は「登るのに先立って」、④は「登れば」である。

E 多義語の使い分けを問う問題である。

問1 빛 が「火事」の意で用いられているものを選ぶ問題。①、②は「電灯」、③は「火」の意で用いられている。

問2 ㄴ이 が「場合」の意で用いられているものを選ぶ問題。②は「手だて」、③は分析的な形で「…することができる」を表し、④は「一手」の「手」を表している。

F 与えられた日本語の意味を韓国語で表現する問題である。日本語の直訳では解けない問題の出来が悪かった。

問1 日本語の直訳で考えると誤りやすい問題である。「어떻게 되십니까?」は目上に対して年齢や名前を尋ねるときなど、様々な場面に応用できる表現なので、ぜひ覚えておきたい。①、②は文法的に成立しない表現である。平易な問題のつもりで出題したが、正答者が半分以上であった。

問2 「そろそろ着く」という慣用的な表現を問う問題。②、③は「すでに着いたでしょう」、④は「今しがた着いたでしょう」である。

問3 「…することにする」を問うもので、比較的素直な出題である。①は「受け入れろと言った」、②は「受け入れそうになった」、④は「受け入れるに値した」である。

問4 「よそ見をする」という慣用的な表現を問う問題。①が正しい。②は「一目で見るな」、③は「両目を閉じるな」、④は「目を開けるな」である。

第3問 日常の生活でありふれた対話を材料に、文脈を理解して合理的に考えることで対話を完成させる形をとった。これにより、会話で多用される基本的な語彙、日常の会話でよく用いられる表現、短い文を理解する能力、対話の流れの理解を問うようにした。なお、選択肢は対話全体を理解して初めて正しく解答できるようにすると同時に、日本語の直訳では誤りとなる選択肢も配分した。

①A 短い対話を材料に日常生活でよく使われる語彙、相づちに用いられる表現、受け答えに必

要な文法知識を問うた。

問1 「水曜日に来ました。」という受け答えを手掛かりに「いつ」という疑問詞を選択させる初歩的な問題である。第3問のなかで最も正答率が高かった。

問2 「いろいろお世話になりました。」に対する相づちとして「どういたしまして。」に相当する表現を選択させる問題である。韓国語ではこのような場面では「천만의 말씀입니다.」だけでなく、「뭘요.」もよく用いられている。

問3 日本語の「古い」に当たる韓国語の表現を選択させる問題である。選択肢には時間を経た状態を表す表現をあげたが、用いられた単語が基本的であったためか、正答率が高かった。

問4 相手に何かを勧められたときの受け答えとして、婉曲な断わりの表現を選ばせる問題である。正答の「됐어요. もう結構です。」はこういう場面での決まり文句であるが、日本語の「いいです。」からの類推からか、①を選んだ受験者が多かった。

問5 이, 그, 저 の指示機能を問う問題である。話の現場がなく、話し手と聞き手が互いに了解している対象については그で指示する。ところが、日本語ではこうした対象を「あの」で指すことから誤って類推し①を選択したものが多く、第3問のなかで最も正答率が低かった。

問6 疑問詞を使った強調の表現を問題に取り上げた。日本語の直訳による理解でも正答に至れるためか、正答率が高かった。

②B 七つの文からなる対話文を材料に文脈の理解と日本語に相当する韓国語の表現を問う問題である。

問1 「それじゃ誰の本ですか。」という問い掛けの文を手掛かりに、その質問の前提となる情報を含む文を選択させる問題である。否定の表現を含んだ文で理解を確かめようとしたが、日本語の直訳で正答に至るためか、第3問のなかで二番目に正答率が高かった。

問2 日本語の貸借の謙譲語を含む表現を韓国語の貸借動作の表現に変える問題である。「お借りする」という謙譲表現からの誤った類推で 빌려 드리다 (お貸しする) が述語となった選択肢を選んだものが多かった。

③C 11の文からなる対話文を材料に文脈の理解、日本語に相当する韓国語の表現、反語疑問文の知識を問う問題である。

問1 시켜 먹다 (出前をとって食べる) という表現の理解と対話の流れの理解を確かめようとした。

問2 日本語に相当する韓国語の表現を選ぶ問題であるが、日本語の「何でも」からの誤った類推で③を選んだ受験者が多かった。

問3 対話の流れの理解を確かめると同時に、反語疑問文の知識を問う問題である。日本語の直訳で正答に至るためか、正答率が高かった。

第4問 ある程度の長さの平易な文章を読ませ、書き言葉の表現の理解とある程度の論理的な文章展開の理解能力を測ることを目的とした。課題文は、カラオケが題材となったエッセイで、高校生にとって親しみやすい内容だと思われる。第4問の正答率は8割以上で、他の問題より正答率が高かった。

問1 前後の文脈から 다가 が最も適当であることを導く問題で、文章の読解能力と語尾の意

味の理解を問うた。文脈から、「(途中まで) 歌って」の意味の語句が入ることが分かれば、正解の①に至ることが可能であろう。

問2 마음 を用いた慣用表現に関する問題。

問3 反語的な表現の理解を問う問題。疑問詞が否定表現とともに使われた場合、意味の取り方が難しくなるので、どの程度理解されているかを見た。原文は「うまく歌えなければどうだと言うのだ。」という意味で、「うまく歌えなくてもかまわない」のだから、正解は③となる。ちなみに、①は「うまく歌えなければならない。」、②は「歌う必要はない。」、④「歌を歌わなくてもよい。」という意味である。この問題は第4問中で最も正答率が高かった。

問4 全体的な内容の理解を見る問題。選択肢が日本語であったためか、正答率は9割を超えた。正解は①と③である。①は原文の2～3行目の「그 중에서도 가장 ~ 시험이었다。」の部分に対応する。③は原文の4～12行目の「나는 고등학교를 ~ 그만두지 않았다。」の部分に対応する。

第5問 課題文は、日本でホームステイをしている韓国の高校生が自分の両親にあてた手紙である。日常的な表現の理解と全体的な内容理解能力を測ることを目的とした。各問題の正答率は、問2が若干低いものの、全体的には第4問と同様かなり高かった。

今回の文章程度であれば、十分解答可能なようである。今年度は、文章の長さを600字程度に収めたが、もう少し長い文章の方が内容的にも様々な質問をすることができるので、長さについては今後検討の余地があると考え。ただし、長文問題の難易度については、今年度の結果だけで結論を出すべきではないと考える。

問1 소용없다 (使い道がない) という慣用的な表現と -나 보다(I - 나 보다)(～みたいだ) という推量表現の理解を問う問題。

問2 文章の内容把握を問う問題。第5問では最も正答率が低く、7割程度の正答率であった。登場人物の家族の人数を問うたものであるが、「両親」を2人と数えるべきところを、1人と計算した受験者が多かったようである。

問3 名詞形語尾を使った表現の理解を問う問題。日本語の「…するのはまれた」にあたる韓国語は -기 드물다 の形であり, 드물다 の前に用言を名詞化する -기(I - 기) が付く。したがって、正解は②である。

問4 名詞を修飾する動詞の形態についての問題。学習者にとって連体形の使い方は難しい部分であり、ここでは間違いやすいと思われる 남다 の連体形について問うた。日本語の直訳だと②의 남는 を選びやすいが、正解は①의 남은 である。

問5 全体的な内容の理解を見る問題。正解は④と⑥である。④は「京子のおばあさんが作ってくださる料理は蓮淑の口に合う。」という意味で、原文の12～13行目にある「할머니가 해주시는 ~ 몰라요。」の部分と対応する。⑥は「蓮淑は2週間の予定で京子の家に来ている。」という意味で、原文の7行目にある「여기 도착해서 ~ 지났어요。」の部分と、17行目にある「일주일 후에는 돌아가야 하는데」の部分を考え合わせると、正解にたどり着く。

(2) 追 試 験

第1問 韓国語の発音・表記についての問題であるが、いずれも基礎的学力を問うものである。

①A：濃音化に関する問題である。

問1 漢字語の終声 ㄷ に後続する子音 ㄷ の濃音化

問2 特定の漢字の濃音化

②B：流音化と口蓋音化に関する問題である。

③C：韓国語の漢字音に関する問題である。

ABC ともおおむね本試験の内容・形式を踏襲した。

第2問 語彙と文法の知識、及び日本語と韓国語の表現の違いを問う問題である。語彙については特定の品詞に偏らぬように配慮した。表現については、書き言葉のみならず話し言葉にも着目した。いずれも難易度別の配分を考慮しつつ作問した。とりわけ日本語母語話者の学習の要点となるべき点は重点的に出題した。なお、解説文中のⅠ、Ⅱ、Ⅲはそれぞれ第Ⅰ語基、第Ⅱ語基、第Ⅲ語基を示す。

A 活用形を基本形に戻す問題である。

問1 ㅏ変格用言の語幹に -아요 / -어요 を接続させた形(Ⅲ-요) がきちんと理解できているか否かを問う問題。③が正しい。①ならば 나요、②ならば 날아요、④ならば 날아요 となる。ちなみに、②의 날아요は発音は [나아요] であるが、つづりが異なる。

問2 ㄷ語幹の連体形で語幹末の ㄷ の脱落がきちんと理解できているか否かを問う問題。設問の下線部は「か細い」の意味であるが、これに当たるものは①である。②、③も가는の形になり得るが、文脈上この設問ではふさわしくない。④は가는 にはなるが 가는 の形にはなり得ない。

B 用言を正しく活用させる問題である。

問1 この例文での 이르다 は「至る」の意であるので、ㄹ 変格である。よって④が正しい。なお、②는 ㄹ 変格であるが、これは「早い」あるいは「告げる」の意となる。

問2 この例文での 굽다 は「曲がる」の意であるので、正格である。よって④が正しい。なお、②는 ㅍ 変格であるが、これは「焼く」の意となる。③は②の縮約形、①はあり得ない形である。

C 語彙及び表現を問う問題である。

問1 「어떻게 되세요?」の表現を問う問題。「성함이 어떻게 되세요?」は「お名前は何とおっしゃいますか」の意であるが、その場合 어떻게 は 되다 とともに用いられる。従って③が正しい。

問2 紙状のものに対する助数詞(名数詞)を選択させる問題。韓国語は、日本語や中国語と同じく、品物を数えるときの助数詞が品物によって決まっており、正しく使いこなせることが要求される。①は「本」、②は「匹」、③は「軒」。

問3 助詞(体言語尾)を問う問題。韓国語の助詞の用法は日本語と類似する場合が多いが、「…のために」という場合は日本語とは異なり、「を」に相当する助詞である -를 / -을 を用いる。

問4 時間の副詞を問う問題。①は「すばやく」、②は「今しがた」、③は「急に」、④は「早く」であり、②が正しい。

問5 「目を閉じる」の表現を問う問題。「目を」と結び付く動詞は 감다 のみである。②は「覆

えば」、③は「閉めれば」、④は「解けば」である。

問6 「…してはじめて」の表現を問う問題。①は「さらに」、②は「はじめに」③は「なにとぞ」である。

D 類似の語彙・表現を選択させる問題である。

問1 問題文「嫁に行きました」に対して、解答は④の「結婚しました」である。①は「出迎えました」、②は「就職しました」、③は「留学しました」である。

問2 問題文「見物しようと思います」に対して、解答は④の「見物しようかと思っています」である。①は「見物しなければなりません」、②は「見物しようと言います」、③は「見物させます」である。

問3 問題文「ご存知のとおり」に対して、解答は②の「ご存知のように」である。①は「お知りになってから」、③は「ご存知なのに」、④は「お知りになりたいが」である。

問4 設問の -(으)ㄴ 적이 있다 (II - ㄴ 적이 있다) は「…したことがある」の意である。これと最も近い意味のものは③の -(으)ㄴ 일이 있다 (II - ㄴ 일이 있다) である。

E 多義語の使い分けを問う問題である。

問1 나누다 が「やりとりする」の意で用いられているものを選ぶ問題。②は「割る（割り算する）」、③、④は「分ける」の意で用いられている。

問2 사이 が「関係」の意で用いられているものを選ぶ問題。①は「(時間的な) 間」、③は「(空間的な) 間」、④は「(社会的空間の) 間、中」を表している。

F 与えられた日本語の意味を韓国語で表現する問題である。日本語の直訳では解けない問題の出来が悪かった。

問1 「…に教わる」は「…に学ぶ」の意であるので②が正解である。受身表現は日本語の直訳で考えると誤りやすいので注意すること。①は「朴先生にお教えになりました」、③は「朴先生に教えることになりました」、④は「朴先生が学びました」である。

問2 「顔が広い」に相当する慣用表現を問う問題。①は直訳すると「足が広い」だが、これが正解である。②は直訳すると「顔が大きい」で日本語と似ているが、これは誤りである。③は「手が多い」、④は「目が高い」の意である。

問3 ことわざを問う問題。②が正解で直訳すると「虎も自分の話をすれば来る」である。①は「足のない言葉が千里を走る」の意で「悪事千里を走る」に当たり、③は「金剛山も食後の見物」の意で「花より団子」に当たり、④は「夜の言葉はねずみが聞き、昼の言葉は鳥が聞く」の意で「壁に耳あり障子に目あり」に当たる。

問4 덜 という副詞に関する問題。この副詞は「より少なく」の意味で、用言と結びついて「十分に…しない、…しきらない」などの意味を表す。日本語への直訳が困難なので注意を要する。-나 보다 (I - 나 보다) は「…するようだ」の意である。①は「解けたようだね」、②は「入らなかったようだね」、④は「来ないようだね」である。

第3問 語彙と文法の知識、及び日本語と韓国語の表現の違いを問う問題である。語彙については第3問の問題は日常の生活でありふれた対話を材料に、文脈を理解して合理的に考えることで対話を完成させる形をとった。これにより、会話で多用される基本的な語彙、日常の会話でよく用いられる表現、短い文を理解する能力、対話の流れの理解を問うようにした。なお、選択肢は対

話全体を理解して初めて正しく解答できるようにすると同時に、日本語の直訳では誤りとなる選択肢も配分した。

①A 短い対話を材料に日常生活でよく使われる語彙、相づちに用いられる表現、受け答えに必要な文法知識を問うた。

問1 「火曜日」など曜日の語彙と「あす」「あさって」といった語彙の理解を問う問題である。

問2 「おかげさまで元気でした。」という決まり文句を手掛かりに「いかがお過ごしでしたか。」に相当するあいさつ言葉を選択させる問題である。

問3 「朴ミンスさんを知らないの。」という問い掛けを手掛かりに「誰」という疑問詞を選択させる問題である。

問4 ኑ는 날 (休日) という語を理解し、命令と拒絶のやりとりの理解を問う問題。

問5 疑問詞 어떻게 の用法を理解した上で食に関する表現の知識を問う問題。選択肢には食に関わる表現を含む文を並べた。

問6 形式名詞타を含む -을 텐데 の知識を問う問題。この形は接続の語尾のごとく使われるので、選択肢には文と文を繋ぐ文法的形態を含んだ表現を並べた。

問7 「여긴 웬일이세요? こんなところにどうして?」という表現を理解し、後に続く対話文から、Bが「いつでもいいから来い」と言われて来たことを読み取らせ、選択肢を選ばせる問題。

問8 伝聞の内容を聞き手に確認する -다면서? (-するんだって?) の理解と後に続く対話文が自然な流れとなるように選択肢を選ばせ、文脈の理解を問う問題。

②B 10の文からなる対話文を材料に文脈の理解と日本語に相当する韓国語の表現を問う問題である。

問1 어머니 가2番目の発話で「髪が長くて目が大きくとても素直そうに見えた」という容ぼうについて述べているところを手掛かりに、人の容ぼうを尋ねる 어떻게 생기다 という表現を選択させる問題。

問2 日本語に相当する韓国語の表現を問う問題。日本語「何」からの単純な類推では、正答に至らぬよう選択肢に工夫を加えた。対話の流れを理解した者は選択肢の文頭の副詞を手掛かりに正答に至ることができる。

問3 日本語に相当する韓国語の表現を問う問題。選択肢의 -지 그러다 (-すればいいのに) という表現と敬語法が理解できているかを問う。

第4問 読書に関するエッセイを示し、書き言葉の表現の理解と論理的な文章展開の理解能力を測ることを目的とした。

問1 用言語幹に -다(I - 다), -았다/었다(III - ㅁ다), -아다/어다(III - 다) が続く場合は、形が似ているので間違いやすい部分である。原文의 사다 주신 の場合は、語幹に -아다 が続く形である点が問題を解くポイントとなる。

問2 文章の指示内容について問う問題。指示詞의 가指している内容を問うた。

問3 慣用的な表現の理解を問う問題。

問4 反語的な表現の理解を見る問題。指示詞と否定表現の組合せで、意味を取り違えやすい部分である。直訳すると②が正解のように思われるが、③の「とても面白かった」が正解で

ある。

問5 全体的な内容の理解を見る問題。正解は②と⑥である。②は「私は初等学校の時、漫画以外には最後まで読んだ本はなかった。」という意味で、原文の1～2行目にある「초등학교 때는 ~ 없을 정도이다.」の部分と対応する。⑥は「N先生が紹介してくださった本は何でもおもしろかった。」という意味で、原文の12～14行目の「그렇지만 선생님의 ~ 하나도 없었으니까.」の部分に対応する。

第5問 課題文は、韓国の大学生が日本の大学生にあてた手紙である。日常的な表現の理解と全体的な内容理解能力を測ることを目的とした。

問1 否定形を使った表現の意味を問う問題。더 바라다の部分と없다の関係が理解できるかを問うた。原文は「さらに望むことはないが」という意味で、それに近い選択肢は②となる。

問2 文章の指示内容について問う問題。文脈から、指示詞의가前の文を受けている点が理解できれば、正解の③にたどり着くことができる。

問3 内容把握の理解について問う問題。登場人物の二人が会う予定の日を答えさせるもの。「多英の滞在が13日から20日まで」であることと、会う日が「多英の帰る前日」であることが解答のポイントである。

問4 全体的な内容の理解を見る問題。正解は②と⑥である。②は「多英さんと由香さんは写真を一緒に撮った。」という意味で、原文の3～4行目の「좀 늦었지만 ~ 사진을 동봉합니다.」の部分と対応する。⑥は「多英さんは由香さんにあげるプレゼントをまだ買っていない。」という意味で、原文の15～17行目の「참, 뭐 필요한 것 ~ 사고 싶어요.」の部分に対応する。